

2016年4月1日～2016年6月30日

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第82期 第1四半期の株主通信をお届けいたします。

今年度は、優先課題に掲げた利益確保の達成に向けて、官需および国内民需向けの営業については、設備の更新・維持等の需要に対する提案営業に注力いたします。海外向けの営業については、新設したアブダビ支店などの海外営業拠点を活用して、積極的な営業活動を進めてまいります。さらに、海水淡水化プラント向けエネルギー回収システムをポンプ設備と一体にして、国内外の海水淡水化市場へ参入いたします。

また、当社初の海外生産拠点となるインド工場の建設が順調に進んでおり、今年度内の完成を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年9月

土屋 忠博

代表取締役社長



事業の概況

■受注状況

前年度に大型ポンプ案件の受注があった官需向け、ならびに大型送風機案件の受注があった海外向けが減少したことにより、前年同期に対し41.5%の23億74百万円となりました。

■売上高

主に海外向けが増加し前年同期に対し137.9%の23億53百万円を計上しました。

当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する季節性を有しております。そのため、例年、第1四半期の売上高については、相対的に低い水準にとどまっております。

■損益状況

前年同期に比べて売上高が増加したことなどから営業損失は2億76百万円（前年同四半期営業損失4億39百万円）、経常損失は2億34百万円（前年同四半期経常損失3億92百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億65百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失2億93百万円）となりました。

■業績予想

海外経済については、緩やかな回復基調が続くことが期待されます。国内経済については、大規模な補正予算と金融緩和の経済対策が予定されるものの、国内景気の先行きには不透明感が漂っています。当社グループの通期の業績予想に関しましては、前回発表（2016年5月16日）予想と同じ、売上高187億円、営業利益11億60百万円、経常利益12億40百万円、親会社株主に帰属する当期純利益8億50百万円となる見込みです。

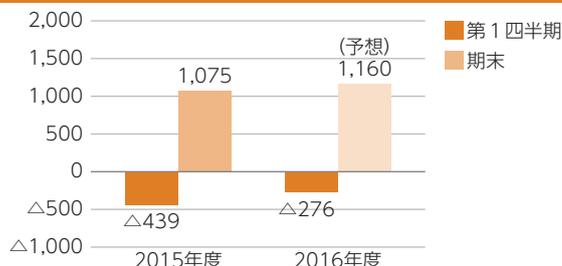
連結業績ハイライト

(単位：百万円)

■受注高



■営業利益



■売上高



■親会社株主に帰属する当期純利益



RO（逆浸透）法海水淡水化プラント向けエネルギー回収システムの商品化

当社は国内メーカーとして初めて高効率なRO（逆浸透）法海水淡水化プラント向けエネルギー回収システム（ERS）を商品化し、海水淡水化市場に参入しました。ERSはエネルギー回収効率98%の世界最高水準を実現したシステムで、当社主力製品である高圧ポンプ等と一体で販売します。

❖ エネルギー回収システム

地球温暖化と世界的な人口増加に伴う水不足が大きな課題となっています。水不足解消のために海水から真水を造る海水淡水化プラントは大量の電力を消費することから、造水コストの削減が注目されています。

当社が開発したERSは、海水淡水化処理過程で排出される高圧濃縮水が持つ圧力を有効利用し、造水コストの削減を図っています。往復運動ピストン構造を採用しており、高圧濃縮水からのエネルギー回収と高圧海水の供給を行うことによって、エネルギー回収効率を高め、電力消費量の大幅な低減に成功しています。



商品化したERS（エネルギー回収システム）



RO膜に海水を供給する高圧ポンプ

- ：高耐食性材料（海水用に耐食性を高めた特殊ステンレス材）
- ：一般構造用材料（塗装により耐食性を高めた材料）

❖ 日本で最初の認定（第三者機関による適合性評価）

ERSは、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）によるテストベッド（北九州ウォータープラザ）において3年間にわたる実証試験の後、本年3月に造水促進センターからRO法海水淡水化プラント向けERSとしては、国内初の適合性の認定評価を受けました。

❖ 初号機納入と今後の展開

ERS初号機は、沖縄県の簡易水道海水淡水化プラントに納入し、電力消費量が導入前の半分以上に低減したことが確認されました。今後、国内外のRO法海水淡水化プラント向けに積極的な営業活動を展開してまいります。

ホームページ
のご案内

当社ホームページ

<http://www.dmw.co.jp/>

最新のIR情報につきましては、
当社のホームページ「IR情報」を
ご参照ください。

「株主・投資家情報」
検索はこちらから▼

電業社 IR

検索

